

事務事業名		赤崎中学校移転事業		☒ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 23 年度～ 28 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	27 義務教育の充実			
	基本事業名	01 学校施設・設備の整備・充実			
根拠法令					
所属	部課名	生涯学習課		全体計画 (※期間限定複数年度のみ) 国庫支出金 0 都道府県支出金 78,190 地方債 200,600 その他 876,593 一般財源 570,425 事業費計 (A) 1,725,808 正規職員従事人数 2 延べ業務時間 4,430 人件費計 (B) 17,720 トータルコスト(A)+(B) 1,743,528	
	課長名	江刺雄輝			
	係名	施設整備係	電話 27-3111		
	担当者	川内利蒼	内線 275		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 東日本大震災により、被災して全壊した赤崎中学校を安全な高台へ移転改築する。 平成26年度 用地取得、支障物件移転、立木伐採、敷地造成工事着工 平成27年度 敷地造成工事、建物工事着工、隣接県道部道路築造(岩手県からの受託事業) 平成28年度 建物工事					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)		
前年度実績(前年度に行った主な活動) 敷地造成工事、隣接県道部道路築造(県からの受託事業)、建物工事着工		
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 隣接県道部道路築造(県からの受託事業)、建物工事		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 赤崎中学校校舎		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 赤崎中学校が移転改築される。		
④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で充実した学校施設が整備される。		
⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
名称		単位
ア	校舎整備数	棟
イ		
ウ		
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
名称		単位
カ	校舎の面積	m ²
キ		
ク		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
名称		単位
サ	校舎の面積	m ²
シ		
ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
		単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					78,190
		地方債	千円				132,300	68,300
		その他	千円		19,423	167,765	387,593	301,812
		一般財源	千円	370	154	5,491	213,285	309,184
	事業費計 (A)		千円	370	154	24,914	209,706	733,178
	人件費	正規職員従事人数	人	1	2	2	3	2
		延べ業務時間	時間	30	600	600	800	1,200
		人件費計 (B)	千円	120	2,400	2,400	3,200	4,800
	トータルコスト(A)+(B)		千円	490	2,554	27,314	212,906	762,286
⑤活動指標		ア	棟				2	2
		イ						
		ウ						
⑥対象指標		カ	m ²				4,500	4500
		キ						
		ク						
⑦成果指標		サ	m ²				4,500	4500
		シ						
		ス						

事務事業ID	1536	事務事業名	赤崎中学校移転事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
平成23年3月11日の東日本大震災により、校舎が全壊したことがきっかけである。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
少子化や被災者の地区外への避難により、児童数が減少傾向にある。 地域住民の意向を尊重し、地域の防災拠点やコミュニティ施設としての機能を一体化した施設の実現をめざす。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
建設委員会等において、安全で豊かな学校を一日でも早く建設するように要望されている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 学校施設の整備を進めることにより、義務教育の充実に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 公立の学校建設なので市が行う。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 学校を建設するので、これ以上の追加・縮小はできない。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 建設委員会等で地域との意見交換を行いながら事業を進めているので、これ以上の成果の向上余地はない。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 児童に対して安心・快適な学習環境を提供をすることが困難となる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 学校建設という個別事業であり、他の事業との連携はできない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 工事の設計等に当たっては精査しており、これ以上の削減余地はない。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 特殊な業務であり、これ以上の業務時間の削減や外部委託はできない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 市の事業なので受益者負担はない。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	特になし。 引き続き早期開校へ向け事業を展開する。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 赤崎中学校の復旧に向け、事務を進めていく。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																			
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																							
		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

		(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者	生涯学習課長	江刺雄輝

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																						
<table><tr><td colspan="2">①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</td></tr><tr><td>☐ 記述不足でわかりにくい</td><td></td></tr><tr><td>☐ 一部記述不足のところがある</td><td></td></tr><tr><td>☒ 記述は十分なされている</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</td></tr><tr><td>☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)</td><td></td></tr><tr><td>☐ 一部に客観性を欠いたところがある</td><td></td></tr><tr><td>☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</td><td></td></tr></table>		①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)		☐ 記述不足でわかりにくい		☐ 一部記述不足のところがある		☒ 記述は十分なされている		②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)		☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)		☐ 一部に客観性を欠いたところがある		☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)						
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																						
☐ 記述不足でわかりにくい																						
☐ 一部記述不足のところがある																						
☒ 記述は十分なされている																						
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																						
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)																						
☐ 一部に客観性を欠いたところがある																						
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	震災により被災した赤崎中学校の早期復旧を目指す。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 適切な事務執行に務める。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
	<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果
(1) 行政経営推進会議等での指摘事項